

売れる米づくり技術情報No.8

～なんかん米 光る粒張り 粒ぞろい～

令和7年8月8日
JAえちご中越
なんかん北営農センター

次年度以降の高品質・良食味米の生産に向けて 秋の土づくりを実施しましょう

1. 稲わら・籾殻は秋すき込みで土づくりに有効活用！地力を高めて気象変動に強い稲づくりを。

- 稲わら連年施用で生育後期の地力発現量が増加し、稲体活力維持と登熟向上が期待されます。
- 稲わら・籾殻は焼かずに秋すき込みで有効なケイ酸源として活用しましょう！
 - ◇ 籾殻にはケイ酸が20%程度含まれており、収穫後得られた籾殻(10a 分約 135kg)を全て散布すると、27kg/10a 程度のケイ酸を圃場に還元できます。
 - ◇ 稲こうじ病や墨黒穂病等の病害が多発生した圃場の籾殻の散布は避けてください。

2. 次年度の初期生育確保に向けてワキの発生を防止するため、稲わらの分解を促進しましょう！

- 稲わらの分解が進んでいないと、田植え後、気温の上昇によりワキの発生が多くなり、初期生育の停滞による茎数不足等が懸念されます。

【稲わら分解促進のポイント】

- (1) 土壌微生物の活動が盛んな地温が高い10月中旬までに、分解に必要な酸素を供給するため5～10cmの浅打ちとしましょう。
- (2) コンバインの走行跡などに停滞水がみられる圃場や、冬季に湛水しやすい圃場は、排水溝を作り表面水の排除に努めましょう。
- (3) 湿田や、やむを得ず春すき込みとする圃場は「稲わら腐熟促進材」を活用しましょう。
- (4) 土づくり肥料を施用し、土壌pHの維持、向上を図りましょう。

3. 土づくり肥料を施用し、土壌に不足した成分を補いましょう。

【管内圃場の問題点】

- 有効態ケイ酸の分析値が、県の設定する水田土壌の改良目標値を下まわる圃場が多い傾向です。
(対策)もともとケイ酸が少ない圃場では、稲わらや籾殻からのケイ酸供給量が少なくなります。また、多収穫栽培では肥料成分の持出しが多くなるため、収量の安定確保には土づくり肥料による補給が必要です。
 - ▶ケイ酸補給には「**ニュー米スター**」の散布が効果的！
- 中山間地域、信濃川沿いの壤土質水田でごま葉枯病常発地があります。
(対策)秋落ち、ごま葉枯れ病を防ぐには、鉄・マンガン・ケイ酸の施用が効果的です。
 - ▶ミネラル・ケイ酸補給には「**みつパワー**」、「**農力アツプ**」の散布が効果的！

【土壌診断の申し込みについて】

- JAでは無料で土壌診断を実施しています。お申し込みにつきましては、営農センターまでお問い合わせ下さい。

おすすめ稲わら腐熟促進材

秋施用に
おすすめ！

ワラ分解キング (規格 10kg) 〈標準施用量〉10kg/10a
〈特徴〉2種類の分解菌のコンビネーションで強力に分解！比較的低温でも分解促進効果があります。

アグリ革命(細粒) (規格 2kg) 〈標準施用量〉2kg/10a
〈特徴〉酵素の働きにより短期間で分解しますので、春施用でもお使いいただけます。
液剤タイプの「**アグリ革命 アクア**」(規格 100ml・500ml)もあります！

おすすめ土づくり肥料

低コスト土づくり
肥料です！

ニュー米スター (規格 15kg) 〈標準施用量〉30kg/10a
保証成分(%):リン酸 2.0、アルカリ分 32.0、ケイ酸 32.0 **令和7年度土づくり助成対象資材**

- ◇ 1袋が15kg規格で持ち運びや施用時の労力を軽減できます。
- ◇ ケイ酸を中心とした土づくり肥料で、管内全域での施用に適しています。

苦土重焼燐 30 (規格 20kg) 〈標準施用量〉20～40kg/10a **令和7年度土づくり助成対象資材**
保証成分(%):リン酸 30、苦土 4.5 含有成分分析例(%):ケイ酸 9、石灰 17、鉄 2

- ◇ 稲の生育初期に必要な早効き、中後期に必要な遅効き両方のりん酸を含みます。春に冷たい水がかかる圃場や、りん酸が不足している圃場への散布におすすめです。

みつパワー (規格 20kg) 〈標準施用量〉60～120kg/10a **令和7年度土づくり助成対象資材**
保証成分(%):マンガン 10 含有成分分析例(%):ケイ酸 25.1、苦土 2.7、石灰 21.7、鉄 1.7

- ◇ 溶性マンガンを10%含むほか、副成分としてケイ酸、石灰、苦土、鉄などを含む総合的な土づくり肥料です。ごま葉枯病対策・秋落ち田におすすめです。

農力アツプ (規格 20kg) 〈標準施用量〉60kg/10a **令和7年度土づくり助成対象資材**
保証成分(%):ケイ酸 20.0、アルカリ分 43.0、苦土 2.0、マンガン 1.2

- ◇ ケイ酸溶出率が高く、効果的にケイ酸の補給ができます。また、鉄分やマンガンを、有害な硫化水素ガスと結合することで無害化します。秋落ち田におすすめです。

【令和7年度土づくり助成のご案内】

☆天候に左右されない安定的な高品質米生産に向け、土づくり資材の散布に対して助成を行っています。

【助成内容】	
	① JAに米の出荷登録を行う生産者から、JAを通して土づくり助成対象資材10袋以上の散布作業を受託する者に対し、1袋あたり150円(作業委託料金相当額)を助成
	② JAに米の出荷登録を行う生産者で、土づくり助成対象資材10袋以上を購入し散布する者に対し、1袋あたり80円を助成

※ ①の散布作業受託に対する助成を受けるためには「土づくり資材散布作業受託助成申請書」の提出が必要となります。令和8年度の土づくり助成については、内容が決まり次第お知らせします。

【お問い合わせ先】

なんかん北営農センター米穀課/0256-47-1429